

令和5年 第10回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和5年10月20日(金) 午後2時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、木村武俊 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後2時00分
- 6 令和5年第9回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。
丹羽委員、小山委員 署名。
- 7 教育長報告
(1) 一般事務報告 なし
(2) 専決事務報告 なし
- 8 議 事
議案第31号 大河原町障害児就学指導審議会委員の委嘱について
教育総務課長より説明。
鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。
- 9 その他
(1) 教育長報告
校長会資料による報告
1 ウェルビーイング (well-being)
(1) ウェルビーイングをいかに教育に生かすべきか (前野隆司)
(2) 教師が花咲く学校づくり (山辺恵理子)
持続する幸せ。町でも取り組んでいる。子供のウェルビーイングに繋いで行ければ良い。

2 『裁判長の泣けちゃうお説教』（長嶺超輝）

教師の仕事は、子供の成長を支え見守ることである。子供は失敗するのが当たり前であり、失敗する中で多くを学び成長していく。教師も、登場する裁判長のよう、厳しさの中にも温かさがあり、そしてずっと応援しているよという気持ちが子供に伝わる言葉で紡いでいかなければならない。

3 『苦しかったときの話をしようか』（森岡毅）

自分のスタイル。若い先生方には心と体のバランスを崩すことのない自分なりのやり方や考え方を見いだしていく必要がある。ワークライフバランスが大事。

4 『コロナ後の教育へ』（苅谷剛彦）

「対話的学び」を中心とした授業改善で成果が見えてきた本町にとっては、「暗記型」を超えた資質能力の育成につながると考える。英語教育については、全国学力調査「スピーキング」での低い正答率を見ると、会話力でさえ十分ではない状況にある。英語授業の改善が必要である。

5 授業づくり

（1）個別最適な学びと協働的な学び（那須正裕）

（2）資質・能力の三つの柱の相互関係（那須正裕）

本町での一般的な単元構成は、子供同士の「対話的な学び」が単元の8割、「個別学習」（練習問題、新聞づくり、レポート作成等）が2割。個別最適な学びは、アプリによるドリルなどで最適に学べる。だが、大事なものは協働での学びである。

6 小学校プログラミング教育

R2.2 に文科省から発行された『小学校プログラミング教育の手引』に「本手引における指導例の対象範囲について」という頁がある。そこに示されているプログラミング教育（算数、理科、社会）については必ず実施する必要がある。

7 算数授業

（1）子供たちの身の回りの問題を解決する算数授業（笠井健一他）

（2）新しい算数5上（東京書籍）新旧対照

東京書籍の小学5年の算数の教科書。これまでの教科書には正答のみが記載され、誤答は入っていなかった。誤答が入ることで、授業展開が大きく変わるはずである。つまり、つまずき、誤りを扱うことで「対話的学び」につながっていく展開になる。

8 『みんなが輝くために4』（梅田真理）

中学校の通級指導学級の話である。特に配慮を要する児童生徒を抱える先生方に

ぜひお読みいただきたい。

9 研修関係について

該当する教員について説明

10 その他

各校の授業、研修会、大会、事業の様子について資料により説明。

舟山委員	今の若い人は、大事に育てられていると思う。否定的な事を言われなまま成長してきて、社会に出た時に、ちょっとでもつまずいた時の自分の気持ちの持ち方が訓練されていないと思う。自分の心の鍛え方を、教育でどのような場面で教えたらいいか考えさせられた。 ICT教育の話。丁寧に教えすぎると伸びしろが小さくなる。
一盃森委員	自分づくり。学力、知識を身につけていくことは、自分自身をどのように方向づけて生きて行こうとするのが大事。知識を身につけ組み立てていって、情報を得ながら修正していく。方向を自分で決めていく力を身につけていくことが重要。 荻谷先生の話。否定的に言っているが、納得する部分もある。このような見方が大事。妥当性と否定性の両方を常に頭の中に置いておかなければならないと感じた。 データを元に活動を考えていく。全国学力テストを引き合いにして述べられているが、実際の子供の活動で、自分達の生活の中でアンケートを取って、疑問に思っていることをあきらかにしていっての児童会、生徒会、委員会などの活動を経験したことがない。町では施策を決めて推進する上で住民アンケート調査はしている。学校では経験がない。今、学校で生徒会や委員会活動をする上でアンケート調査をしている学校はあるか。結果を分析して次の活動につなげる計画づくりがとても大事。
小野寺専門監	大中で縦割りのグループを組んで、スマホの使い方についてアンケートを取ったりしながら、これからどうしたらいいか考えていく。というのをやっている。今のアンケートは、タブレットですぐに集計、グラフで出る。
舟山委員	子供たちにとって、身近なものだと興味がある。進めてもらいたいと思う。
丹羽委員	今のICT機器を使いこなせる人は、とても能力を発揮できる。ICT機器の時代である。
鈴木教育長	データを分析していく力がこれからますます必要になってくる。身近な事象をまずはやってみて、自分のやっている有用性を感じ、将来に繋がっていく。
小山委員	裁判長の泣けちゃうお説教の話。悪いことをした人に対し、罰するだけでな

く、温かい言葉で良いところを引き出してあげるのも大事だと思う。
P30 の個別最適な学びと協働的な学びのところで、アプリなどで楽しく一人で勉強できるものもあるが、やはり、人の前で話すとか、誰かに教えてもらって初めて分かるものもある。子供たち自身もいろんな学び方があるのを知ってもらいたい。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和5年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和5年11月21日(火)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時45分

令和5年11月21日

署名委員

署名委員